

1月23日 トラック運転手さんに感謝の手紙を渡しました

3年給食指導「給食の歴史と給食に関わってくださる人々」

3年生の児童は、献立を眺めてその日のメニューを読み上げるなど、毎日の給食を楽しみにしています。しかし、毎日の給食が当たり前になってしまい、教室に給食が運ばれて来るまで、どのような人が関わっているのか、考えたことがない子が多いようでした。

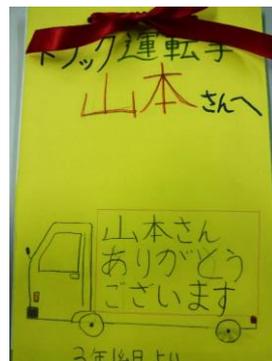
そこで、全国学校給食週間に栄養教諭から給食の歴史についての話を聞きました。給食の目的やそこにこめられた思いなどについて、スライドを見ながら理解を深めることができました。



特に、戦後再開された当時の給食の様子が、とても質素なメニューで驚いていました。また、もともと給食は、食べることが困難であった児童を支えるために開始された、という当時の人々の思いに触れることもできました。

この学習をした日はちょうど大雪だったので、数年前の大雪の際に、給食を届けることが困難になったことを担任が話しました。すると、栄養教諭から、給食のトラック運転手さんは前日からタイヤにチェーンを巻き、時間に遅れないよう準備されていたんだよと、教えていただきました。子ども達は、「そうだったんだ。」と驚きの声を漏らすとともに、感謝の気持ちをもちました。大雪の日も、当たり前のように届く給食には、様々な人の努力や思いやりがあるのだと知ることができました。

翌日、給食当番の児童が配膳室まで給食を取りに行く際、窓から給食運搬用のトラックが見えたので、子ども達は、「あ！トラックだ！」と嬉しそうにしていました。これまで、あまり考えたことがなかった給食を支えてくださる方々を、意識し始めた様子がうかがえました。そしてトラック運転手の山本さんへ感謝のお手紙を手渡しました。



児童は、給食が当たり前にあるのではなく、給食をスタートした方の思いや歴史があること、自分達の目の前に届くまでに多くの人に支えられていることなどを理解することができました。今後も、機会をとらえて担任から話をしたり、栄養教諭と連携しながら知識を深めたりしていくことが大切であると感じました。